第４章　キャリア教育授業の実践

1　キャリア教育授業の趣旨、目的及び実践

（1）　授業の趣旨

・高等学校等のキャリア教育の主要な担い手である教員が、雇用・労働に関する知見や自己理解・職業理解等のキャリアコンサルティングの技能を活用したキャリア教育の授業を実践することで、キャリアコンサルティングやキャリア教育に対する理解を深める。

・高校生に対するキャリア教育において、キャリアコンサルタントが有する自己理解、仕事理解等に係る知識を生かしたキャリア教育の授業を実践する方法を身に付けることで、キャリア教育を実践している教員を支援するとともに、高等学校等におけるキャリアコンサルタントの活用促進を図る。

（2）　授業の目的

・高校生が進路先で遭遇することが予想される事象について対処する方法について考えることで、将来の生活(大学・短大・専門学校等での学生生活や就職した後での職業生活)に適応することができるよう、自己理解・自己管理能力、課題対応力及びキャリア・プランニング力を養成する。

・グループワークを通じて、メンバー相互の話合い等を実施し、メンバー同士のコミュニケーション能力、メンバーが役割を分担した上で相互に協力・協働して課題に取り組む姿勢、人の話を聴く力と自分の意見を述べる力、自分の意見を主張する力と他人の意見を受け入れる力、決められた時間内に課題を解決して答えを出す力等、人間関係形成・社会形成能力を養成する。

（3）　授業の実践

・キャリア教育は、特にホームルーム活動や総合的な学習の時間を中心になされることが多い。

・キャリア教育の内容に含まれる雇用・労働・職業に関する分野などは、公民・現代社会や政治経済、産業社会と人間の内容に関係するところも多い。

2　高等学校の学習指導要領とその解説

・教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項：キャリア教育を推進するために、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする

（出典:文部科学省「高等学校学習指導要領解説総則編」2009年7月）

（1）「公民：現代社会」の目標と内容(抜粋)

①　目標

・人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間について理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について、主体的に考察し、公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

② 内容

ⅰ 青年期と自己の形成：生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。

・ここでは、現代社会に生きる青年として、青年期の意義を理解させるとともに、自己の内面形成と社会とのかかわりに着目しながら自己形成の課題を考察させ、青年としていかに生きるかを考察することの大切さについて自覚させることを主なねらいとしている。

・指導に当たっては、自己と社会とはどのようなかかわりをもっているのか、青年としてどのように生きるのかについて考察させるとともに、多くの可能性の中から自らの生き方を模索しつつ自己形成の課題を明らかにしていこうとする態度や、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うよう配慮することが大切である。

・「生涯における青年期の意義を理解させ」については、青年期は自己を確立する基礎を培う重要な時期であり、親などからの依存を脱却し、自らの生き方を多くの可能性の中から選択しつつ社会とかかわり合う中で自己を形成し、心理的、社会的な自立を遂げていく重要な時期であることを理解させる。また、青年期は自己の内面と現実社会との葛藤の中から、アイデンティティを確立する時期であることを理解させるとともに、よりよく生きることを追求することの大切さを自覚させる。

・「自己実現と職業生活」については、現代社会の特質や社会生活の変化とのかかわりの中で職業生活をとらえさせ、望ましい勤労観・職業観や勤労を尊ぶ精神を身に付けさせるとともに、自己の個性を発揮しながら新たなものを創造しようとする精神を大切にし、自己の幸福の実現と将来の職業生活や人生の充実について触れながら考察することが大切である。

・「社会参加」については、自己とのかかわりに着目させながら、自己形成にとって社会とのかかわりが重要であること、社会参加することによって、社会の維持・発展に貢献するばかりでなく、自己実現を可能にすることができることを理解させ、どのように社会的役割を担っていくのかについて考察させる。

・「自己形成の課題を考察させ」については、人間は社会的存在であり他者とのつながりや社会とのかかわりなしでは生きていけないことや、他者と共に生きるには自己の幸福の追求と自己を取り巻く社会との調和が大切であることに気付かせ、責任ある個人として社会に積極的に参加していくことが求められていることなどについて理解させた上で、自らの人生や進路選択などを視野に入れながら、自己形成にかかわる自らの課題を考察させる。

・「現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる」については、自己に対する理解を深めさせるとともに、現代社会に生きる青年として、より良く生きることの大切さを自覚させる。例えば、青年としての自己の目的を実現しようとする行動と社会の利益が対立した場合を課題として取り上げ考察させ、自覚を深めさせることが考えられる。

ii　現代の経済社会と経済活動の在り方：現代の経済社会の変容などに触れながら、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。

・「雇用、労働問題」については、近年の雇用や労働問題の動向を、経済社会の変化や国民の勤労権の確保の観点から理解を深めさせる。その際、終身雇用制や年功序列制などの制度の変化、非正規社員の増加、中高年雇用や外国人労働者にかかわる問題、労働保護立法の動向、労働組合の役割、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)などと関連させながら、雇用の在り方や労働問題について国民福祉の向上の観点から考えさせることが大切である。

・「社会保障」については、疾病や出産、障害、加齢など様々な原因により発生する経済的な不安を取り除くなどして生活の安定を図り、人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、現状と課題などを、医療、介護、年金などの保険制度においてみられる諸課題を通して理解させる。またその際、少子高齢化の進行や、財政との関連、保険料の負担などとの関係について考察させる。

・「個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる」については、個人や企業が社会を構成する一員として、経済活動において役割を担い、また法的責任のみならず社会的責任を担っていることを考察させることが大切である。

(参考:「高等学校学習指導要領」2009年3月及び「高等学校学習指導要領解説[公民編]」2009年12月を基に作成)

(2)「公民:政治・経済」の目標と内容(抜粋)

① 目標

・広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

② 内容

・現代日本の政治や経済の諸課題:少子高齢社会と社会保障、地域社会の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食糧問題などについて、政治と経済とを関連させて探求させる。

・「雇用と労働を巡る問題」については、少子高齢化や産業構造の変化、規制緩和の進展などにより就業構造が多様化し労働市場が大きく変化していることなどを、日本の労使関係の特色、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割などに触れながら理解させる。

・このような理解の上に立って、日本の労働市場の特徴とされてきた終身雇用制や年功序列型賃金体系、労使協調などにより雇用の安定を確保するという考え方と、規制緩和による就業形態の多様化、成果主義に基づく賃金体系、労使の新しい関係などにより労働力を効率的に活用するという考え方とを対照させ、雇用の安定化と労働条件の改善という視点や仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の視点などから、今後の日本の雇用・労働政策の在り方について探求させる。

・例えば、派遣労働者やパートタイマーなど非正規労働者、女性や若年者、高齢者、障害者等の雇用・労働問題、失業問題、外国人労働者問題など具体的な事例を取り上げて探求させることが考えられる。また、諸外国における労働条件や労使関係、労働組合の現状、外国人労働者の流入などについて調べさせ、日本の今後の雇用と労働の在り方について探求させることなどが考えられる。

（参考:「高等学校学習指導要領」2009年3月及び「高等学校学習指導要領解説[公民編]」2009年12月を基に作成）

（3）「産業社会と人間」のねらいと指導事項

① 科目のねらいなど

・総合学科における「産業社会と人間」は、人間としての生き方の探求、特に自己の生き方の探求を通して、職業を選択し、決定する場合に必要な能力と態度を養うとともに、将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーション能力を培うことや現実の産業社会やその中での自己の在り方生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を育成することをねらいとしている。

・各学校において「産業社会と人間」を設ける場合、目標の設定に当たっては、産業社会における自己の生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養う観点に留意する必要がある。また、生徒が自己の進路に応じ主体的に各教科・科目の選択ができるように、就業体験や見学等の体験的な学習、調査・研究や発表・討論などの生徒の主体的な活動を重視した学習方法を積極的に取り入れるよう配慮する。

② 指導事項

・職業と生活:各種企業や施設等の見学及び就業体験やボランティア活動、卒業生や職業人等との対話、発表や討論等を通して、職業の種類や特徴、職業生活などについて理解するとともに、勤労の意義について考察し、職業人として必要とされる能力・態度、望ましい勤労観・職業観を養うための学習を行うこと。

・我が国の産業と社会の変化:先端的な工場や情報関連企業等の見学、技術者や海外勤務者等の講話、調査研究や発表・討論等を通して、我が国の科学技術の発達や産業・経済の発展・変化について理解し、それがもたらした情報化、国際化等の社会の変化、人々の暮らしへの影響について考察するための学習を行うこと。

・進路と自己実現:発表・討論、自己の学習計画の立案等を通して、自己の能力・適性、興味・関心等と各種職業に求められる資質・能力を踏まえ、自己の将来の生き方や進路について考察すること。

（参考:「高等学校学習指導要領」2009年3月及び「高等学校学習指導要領解説[総則編]」2009年7月を基に作成）

（4）「総合的な学習の時間」の目標と内容

① 目標

・横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

② 総合的な学習の時間の内容の取扱い

・問題の解決や探求活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

・自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

・体験活動については、総合的な学習の時間の目標並びに各学校において定める目標及び内容を踏まえ、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けること。

・グループ学習や個人研究などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うこと。

・各種団体との連携、地域の教材や学修環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

（参考：文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月及び
「高等学校学習指導要領解説［総合的な学習の時間編］」2009年7月を基に作成）

３　授業の内容

「職業の中の仕事を探してみよう」

（進路情報の理解と活用）

◆ねらい

職業の中には様々な仕事（課業）が含まれ、それらが総合されて一つの職業が成立していることを職業分析を通して理解し、職業についてより現実的、多面的に理解できるようにする。

◆実施学年　　２学年　１学期　　（１学年　３学期）

◆事前指導・準備

・興味のある職業について調べてくる。

・身近な人を通して職業の具体的な仕事内容について調査してくる。

・ワークシート１・２と「職業分析振り返りシート」は生徒人数分印刷しておく。

・ワークシート３は各グループに３枚ずつ印刷しておく

◆授業の展開

	活動の内容	留意点
開始 10分	・職業における仕事内容について、数人の生徒が発表する。 ・課業について担任から説明する。 ・グループに分かれてワークシート１を配布。	・担任が発表生徒を指名する。 ・いくつかの課業が集まって一つの職業が形成されていることを理解させる。 ・生活班をグループとしてもよい。
活動の展開 35分	作業１　個人ワーク（ワークシート１） ・グループで職業群の中から一つ職業を選ぶ。 作業２　個人ワーク（ワークシート１） ・各自が課業一覧からその職業に含まれている課業を選び出す。 作業３　グループワーク（ワークシート１） ・各自が選んだ課業をグループ内で発表し、最も重要と思われる課業を３つ選出する。 作業４　個人ワーク（ワークシート２） ・３つの課業についてワークシート２を使って各自分析・評価する。 作業５　グループワーク（ワークシート３） ・課業ごとに分析結果をグループで集計し、分析結果をまとめる。	・５つの例示職業の中からグループとして一つ選ぶ。 ・その職業を想像してみて、こんな仕事がありそうだといった考えで課業を選択してよい。 ・各自が選んだ課業の中から最も共通して重要と考えられる課業を３つ選ぶようにする。（付箋を使ったKJ法で分類してもよい） ・ワークシート２で各自、５段階の課業評価を行う。生徒個人がどのようにその課業を見ているかで評価してよい。 ・グループ集計を行う。 ・ワークシート３は３つの課業で１枚ずつ使用するので、３枚用意しておく。
まとめ 5分	・グループごとにグループでの分析結果を発表する。 ・職業における課業についての確認とまとめを行う。 ・振り返りシートによる自己評価を行う。	・各グループから代表がでて発表する。 ・２～３名の生徒に質問をし授業内容をまとめる ・振り返りシートは回収する。

◆事後の指導・活動

・振り返りシートを集計しホームルーム通信、クラス新聞、掲示などの方法で発表する。

・各自興味のある職業の課業を職業ハンドブックなどで調べてみる。（学習の個別化）